

北陸地域出土の和同開珎

芝田 悟

1 はじめに

ここで扱う北陸地域は現在の新潟県・富山県・石川県・福井県の4県であり、古代においては越後国・佐渡国・越中国・能登国・加賀国・越前国・若狭国の7カ国（注1）のエリアである。

北陸地域の和同開珎出土例は50遺跡（55例）を数え、出土総枚数は989枚にのぼる（注2）。和同開珎は各県から発見されているが、県別にみると出土例や出土枚数にかなりの多寡が認められる。その内訳は北から順に記すと、新潟県では10遺跡（全体に占める比率は20%、以下同じ）、181枚（18.3%）。富山県は4遺跡（8%）、4枚（0.4%）。石川県は27遺跡（54%）、774枚（78.3%）。福井県は9遺跡（18%）、30枚（3%）である。

以下では、出土諸例の分布傾向ならびに出土状況を分析・整理し、地域的な特質を検討してみたい。

2 出土例の分布傾向

北陸地域において確認された和同開珎の出土例を遺跡種大別（注3）したものが表1である。これによると、集落ほか例の出土例は各県より確認されており、社寺・祭祀例ならびにその他例とした出土例は確認されていない県が存在する。よって、出土例数は集落ほか例が社寺・祭祀例とその他例を大きく上まわっている。しかし、出土枚数については逆に後二者が前者より多くなっている。これは社寺・祭祀例に三小牛サコヤマ遺跡の600枚が含まれており、また、その他例では茗荷谷古銭出土地遺跡の150枚を含んでいることによるものであるが、前者と後二者の一遺跡からの出土枚数を比較すると、後二者より銭貨が多量に出土する傾向がある。

表1 和同開珎の出土例

県名	集落ほか	社寺・祭祀	その他	計
新潟県	9(31)	0(0)	1(150)	10(181)
富山県	3(3)	1(1)	0(0)	4(4)
石川県	19(112)	5(623)	3(39)	27(774)
福井県	3(3)	3(22)	3(5)	9(30)
計	34(149)	9(646)	7(194)	50(989)

※1 雄山山頂遺跡・西島遺跡の枚数は不明であるが、1枚としてカウントした。

※2 数字は出土例、()の数字は枚数を示す。

さて、和同開珎を出土する遺跡の時期は主に8～10世紀の範疇であるが、これらの遺跡を8世紀代の時期と9世紀以降の二時期にわけて分布を概観してみよう。

まず、8世紀の新潟県では茗荷谷古銭出土地遺跡を除くと、いずれも官衙（的）跡や集落遺跡で

ある。古代北陸道は新潟県の海岸線を北上するが、その道路沿いに分布する傾向がみられる。頸城郡の砂丘地に「佐味駅」の可能性のある木崎山遺跡が立地する。蒲原郡では信濃川下流左岸沿いに官衙跡として注目される的場遺跡が所在し、それより北に集落遺跡の山三賀Ⅱ遺跡、船戸川崎遺跡、さらに岩船郡に砂山Ⅵ遺跡が点在する。富山県砺波平野の西端に立地する桜町遺跡は縄文遺跡で著名であるが、古代北陸道沿いに営まれた集落遺跡である。能登半島基部の砂丘に立地する寺家遺跡砂田地区では複数の竪穴住居から出土している。古代能登官道沿いに立地する四柳白山下遺跡は「撰才駅」との関連が想定されている。門前町深田マエダ遺跡は越中国司大伴家持の能登巡行路にあり、立地点や的場遺跡例を考慮すると官衙（的）跡の可能性も指摘できる。加賀地域では官衙（的）跡や集落遺跡、寺院に関連する出土例が比較的多く確認されている。河北潟東縁部の加茂遺跡は能登官道沿いに展開する官衙（的）跡であるが、和同開珎銀銭の出土は末松廃寺例とともに当地域では貴重であり、金沢市街地東南丘陵部の三小牛サコヤマ遺跡は金銅鈴などと約 600 枚の和同開珎が発見され、それぞれに耳目を集めた。手取川扇状地扇央部に宮永市松原遺跡、梯川中流左岸に佐々木遺跡、そして古代北陸道「潮津駅」付近に篠原新遺跡の集落遺跡が所在する。福井県では福井市街地の福井城遺跡の井戸から発見されている。

一方、9 世紀以降の新潟県では 8 世紀と比較すると出土例は減少する。高田平野を流れる正善寺川左岸に立地する一之口遺跡は、11～12 世紀を盛期とするが和同開珎は 10 世紀代の旧正善寺川の下層より出土している。緒立 C 遺跡は的場遺跡の至近に位置し、信濃川中流域沖積地に立地する鬼倉遺跡では川岸に構築された土坑より祭祀銭が検出されているが、溝祭祀を考えるうえで注目すべき例である。佐渡では国府川河口に立地する国府関連の若宮遺跡。富山県砺波平野東南部の扇状地に高瀬遺跡。富山湾に面した丘陵麓の惣領浦ノ前遺跡の溝から出土している。能登半島口の羽咋市の官衙（的）跡と目される吉崎・次場遺跡より発見されている。加賀地域では 10 遺跡を数えるが、とりわけ江沼盆地と金沢平野に多く出土する。前者では、江沼盆地中央付近にある西島遺跡は庄家跡と推測されるが、都合 3 回、60 枚以上が出土している。当盆地に所在する松山 C 遺跡や敷地鉄橋遺跡からも確認されている。他方、後者では郡津、もしくは加賀国府津の指摘がされている戸水 C 遺跡をはじめ、戸水大西遺跡、大友西遺跡や藤江 B・藤江 C 遺跡よりそれぞれ出土している。また、数多くの地鎮遺構の発見で注目された千木ヤシキダ遺跡は金腐川中流域右岸に立地する。手取川扇状地南縁に位置する高堂遺跡からは寺院の埋納遺構から検出されており、貴重である。福井県では敦賀市の松原浜堤で執り行われた祭祀遺構、小浜市内外半島東の沖積地に立地する集落遺跡からの発見がある。

以上、県別に分布を概観してきたが、新潟県では官衙と集落遺跡が殆どを占め、富山県は出土例

が少ないものの、大半が集落遺跡である。石川県では官衙や集落遺跡をはじめ、庄園跡、寺院跡、墓地跡、祭祀跡があり、福井県は集落遺跡や祭祀跡、経塚跡など多種におよんでいる。各県の出土例は一様ではないが、なかでも新潟県と石川県の分布様相は注意をひくものである。とりわけ石川県は出土例数が多く、また性格においても他県とはかなり異なった分布傾向を呈している。

3 出土状況

北陸地域における和同開珎の出土例は 50 遺跡を確認したが、それらは発掘調査により発見されたものや不時発見によるものである。したがって、出土遺跡の性格はすべて明白であるとは限らないが、発掘調査で検出した遺構や遺物を検証し、また立地環境や付近の遺跡などを勘察して性格付けられている。性格については官衙（的）や庄園、集落、寺院、祭祀、墳墓など種々があるが、その出土遺跡の性格にもとづき、類型化を行い、Ⅰ～Ⅵに類別した。以下では後掲した遺構図の出土例を中心に紹介していこう。

類型Ⅰ：公（官）的施設に関連する事例

新潟市市場遺跡（図1）は、1989・1990年にかけて新潟市教育委員会が発掘調査を実施している。信濃川下流域旧の場潟の低湿地に営まれた官衙跡であるが、調査区の北斜面域で検出された桁行き3間、梁行き2間の東西棟の大型総柱建物SB2の南西隅柱穴掘方の上面から緋銭状態の和同開珎20枚が発見されている。うち1枚に布が付着していたとするから、布に包まれて埋納されたものであろう。SB1と重複するが、これより先行する建物である。墨書土器・木簡・漁具・帯金具・木製祭祀具などが多種多彩に出土している。時期は8世紀代に比定されている。

津幡町加茂遺跡（図2）は、1992年（2次調査）に（社）石川県埋蔵文化財保存協会が発掘調査を実施している。河北潟東縁部の沖積地に営まれた縄文～中世にかけての複合遺跡であるが、古代では水陸交通の要衝として潟津の機能を有していたとみられる。古代北陸道（能登官道）の側道から西方向に流れる大溝の南側に掘立柱建物20数棟が検出されている。和同開珎銀銭は南北棟3×4間の雨落ち溝を配した大型建物内南よりの床面より若干浮いた地点で発見された。墨書土器、木簡、馬具などの金属製品が共伴する。なお、7次調査では当地点より東約150m隔てた古代道路の東側に検出された掘立柱建物の柱穴より和同開珎と神功開寶の計2枚が出土している。時期については前者が8世紀代、後者は9世紀前半頃に想定されている。

金沢市千木ヤシキダ遺跡（図3）は、1984～1990年にかけて金沢市教育委員会によって発掘調査が実施されている。金沢平野東部、金腐川中流右岸に立地する古代～中世の複合遺跡である。主体の時期は平安期で、掘立柱建物が9世紀代で9棟、10世紀代12棟、11世紀代2棟の計23棟が検出されている。とりわけ9世紀中頃に比定されるSB12（2×8間、西庇付き）は当該期の中心的建物であるが、その建物の柱穴や敷地内外において10ヶ所前後の銭貨埋納遺構が確認されている。SX12（和同開珎1・萬年通寶2・神功開寶7・不明3）、SX13（和同開珎2・萬年通寶2・神功開寶6・富壽神寶1）、SX14（和同開珎2・萬年通寶1・神功開寶4）、SX22（和同開珎3・萬年通寶2・神功開寶5）、SX25（和同開珎1・萬年通寶1・神功開寶4）から和同開珎が発見されているが、ほかに銭貨と土器が共伴するものや土器のみの埋納例があり、埋納遺構の検出例が多い点が本遺跡の特徴であるといえよう。時期は9世紀中頃に比定されている。

金沢市戸水C遺跡（6次調査）（図4）は、1982年に石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。日本海と河北潟を結ぶ大野川左岸に立地する縄文～中世の複合遺跡で、標高は1m以下の低地である。数次の発掘調査により50棟以上の掘立柱建物が検出され、盛期は8世紀末～9世紀代であることが判明している。本調査で検出された最大の掘立柱建物はSB12号（2間×6間）であるが、その東に接するSB21（南北棟3×2間）西側柱列第2柱穴掘方より和同開珎・神功開寶・不明3枚が発見されている。共伴遺物では墨書土器（「依」「東」）・硯・緑釉・石帯・斎串・唐式鏡など官的な遺物が豊富に出土している。立地点ならびに検出遺構や遺物から郡津、もしくは国府津に想定されている。時期は9世紀前半に考えられている。

金沢市戸水大西遺跡（3次調査）（図5）は、1992～97年に金沢市教育委員会が発掘調査を実施した。戸水C遺跡より西南約1.4kmを測り、犀川・浅野川により形成された扇状地先端部に立地する。調査区の西側に東西にのびる大溝SD30が検出され、それより北域に溝で区画された建物群が展開する。掘立柱建物40数棟と井戸7基、溝、柵などとSD30を中心に墨書土器386点、木簡11点が確認されている。側柱建物SB46は2間×3間の規模であるが、その南西隅P8の底より若干浮いた地点に和同開珎が発見されている。検出した遺構や「宿家」・「舎」・「大市」などの墨書土器、「中庄十四条七里廿九」「殿門」などと記した木簡、木製祭祀具、金銅鈴などの出土遺物から担当者は中庄の経営にたずさわる郡司級氏族の施設の可能性を指摘している。時期は9世紀前半に想定されている。

金沢市大友西遺跡（1・2次調査）（図6）は、1993～96年にかけて金沢市教育委員会が発掘調査を実施した。調査面積は約14,000㎡。戸水大西遺跡の東南約500mに位置する平安時代前期の庄園（伯庄）跡と考えられている。SX01埋納土坑は儀式用の可能性をもつSE01と北側に展開する建物群の中間に位置する。土坑は両側を暗渠で切られており、平面形は不明であるが、土坑内から古代銭貨の塊3個15枚（和同開珎4・萬年通寶4・神功開寶7）と暗渠から2枚（神功開寶・不明）の計17枚が発見された。2次調査では9世紀第3四半期に廃絶したとされるSE23とSB60・61の中間よりSX02埋納土坑が検出され、古代銭貨の塊が2個（和同開珎1・萬年通寶1・神功開寶5・不明2）出土している。なお、SB51から八稜鏡による地鎮事例が確認されている。時期は9世紀前半～中葉に考えられている。

金沢市藤江B遺跡（図7）は、1994年に（財）石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。犀川と浅野川により形成された金沢平野沖積地の微高地上に立地する8世紀後半～9世紀の庄園跡である。掘立柱建物は10棟検出されたが、最大規模を擁するSB01は4×5間以上（床面積60㎡以上）のものである。調査区の南東から北西に流れる大溝のJ13区上層より和同開珎と銅鈴が伴出している。検出遺構や「石田庄」「上家」「南」などの墨書土器や円面硯などの出土遺物から庄園の管理施設である庄家の可能性が考えられている。時期は8世紀後半～9世紀初頭を想定している。

金沢市藤江C遺跡（図8）は、1997年に（財）石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。藤江B遺跡の北西約500mの至近に位置し、同一の庄園跡と考えられる。掘立柱建物は8棟が確認されたが、4号と5号は大型掘立柱建物（床面積約70㎡）で中核施設と考えられるが、その4号掘立柱建物北西隅柱穴P1より和同開珎と須恵器坏片が発見されている。時期は8世紀末～9世紀初頭に想定している。

金沢市上荒屋遺跡（図9）は、1987～91年にかけて金沢市教育委員会が発掘調査を実施した。手取川扇状地の北端部に立地する8世紀後半～10世紀の庄園跡である。掘立柱建物29棟、竪穴住居8棟、土坑6基、溝7条、柵などが検出されている。遺構配置から建物群の変遷はI～IV期に分けられ、最盛期はII期の9世紀中・後葉である。建物群は溝と大溝に囲まれ展開するが、その南辺を限る大溝SD40より多量の墨書土器をはじめ木簡、斎串、人形、馬形などの木製品、帯金具、銅鈴、儀鏡などとともに和同開珎と神功開寶各3枚が出土している。当初は綾庄であったが、その後、東大寺領の庄園になっている。時期は8世紀後半～9世紀中頃に比定されている。

上記した遺跡の他にも緒立C遺跡、木崎山遺跡、吉崎・次場遺跡、西島遺跡、敷地鉄橋遺跡が存在する。

類型Ⅱ：神社および寺院に関連する事例

羽咋市寺家遺跡（図10）は、1978～80年の3カ年、石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。能登半島基部に形成される邑知地溝帯の西を閉塞する砂丘に営まれた縄文～中世にかけての複合遺跡である。主体となる時期は奈良・平安時代で、当該期の官司館や神社の政務を司る厨跡の建物群や祭祀具を製作する神戸の住居群と工房跡、そして祭祀跡（祭祀地区）が確認されている。大型掘立柱建物をはじめ、数10棟の掘立柱建物・竪穴住居、土坑、溝、火処などの遺構と須恵器、土師器をはじめ、墨書土器、銅製品、鉄製品、ガラス製品など多彩な遺物が豊富に出土している。砂田・祭祀地区より和同開珎～饒益神寶まで7種44枚が発見されているが、砂田地区の竪穴住居4棟より和同開珎が出土している。なお、祭祀遺構や多種多彩な遺物の検証から渤海国との交流にからんだ国家的な祭祀が執り行われていたと考えられている。竪穴住居の時期は8世紀中頃に比定される。類型Ⅲ・Ⅳに関連する事例でもある。

小松市高堂遺跡（図11）は、1979～81年にかけて石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。県下最大の手取川によって開析された沖積地手取川平野の南縁に立地する寺院跡であ

る。9～10世紀初頭に営まれた掘立柱建物をコの字形に配置した中央の空間地に117ピット（和同開珎2・萬年通寶6・神功開寶3・不明16）と161ピット（和同開珎2・萬年通寶15・神功開寶8・隆平永寶1・不明13）の埋納ピットが確認されているが、両者の先後関係は後者が古く、前者が新しい。建物は重複しており、それぞれの創建時に執り行われた祭祀行為にともなうものであると考えられる。多量の墨書土器をはじめ、転用硯、緑釉陶器、そして溝から検出された「金光明最勝王經四天王護国品」、「口造口宿女」の木簡は注目すべき資料であり、郡領層と関連性のある寺院が想定される。時期は9世紀代に比定される。

上記した他に、能登国分寺跡、三小牛サコヤマ遺跡、末松廃寺、野々宮廃寺が存在する。

類型Ⅲ：非一般的な集落と関連する事例

聖籠町山三賀Ⅱ遺跡（図12）は、海岸砂丘上の標高約5mに立地する縄文～古代の複合遺跡であるが、主体時期は古墳と古代である。8～9世紀後半にかけて大規模な集落遺跡が形成されており、竪穴住居約90棟、掘立柱建物27棟の他に土坑・ピットなどが検出されている。大型竪穴住居から掘立柱建物に変わっていく時期が9世紀以降であるが、S I 429とS I 1100より和同開珎各1枚が出土している。前者は有力者が居住した大きな竪穴住居跡、後者は鉄滓やフイゴ羽口の出土から鍛冶工房跡とみられる。帯金具や鋤鋤先・鎌・刀子・紡錘車が共伴する。検出遺構や遺物から有位の人物が居住していた農耕集落と考えられるが、時期や立地条件からその成立には律令国家との強い関係が想定されている。時期は8世紀代である。

加茂市鬼倉遺跡（図13）は、1997年に加茂市教育委員会が発掘調査を実施した。信濃川中流域で合流する下条川右岸の沖積低地に立地する古墳時代前期～古代の複合遺跡である。主体の時期は平安時代であり、掘立柱建物、土坑、溝、ピット、河川跡が検出されている。河川跡左岸に検出されたS K 11の規模は185cm×152cm、深さ約50cmを測り、覆土の土層観察から概ね4層に分層できる。最下層の4層から用途不明の木製品と大型の付け木、2層からは土器類と和同開珎、神功開寶各1枚ならびに小型の付け木、箸状木製品が、そして1層近辺から石帯1点が出土している。発見された付け木をはじめ、古代銭貨、石帯はいずれも祭祀性のつよい遺物であることから、北西至近に位置するS B 1の居住者が執り行った祭祀儀礼の可能性が指摘されている。なお、墨書土器約120点と銅碗、神功開寶1枚が祭祀遺物が集中した区域の河川跡から出土している。共伴土器の年代観から9世紀第2四半期に想定されている。

上越市一之口遺跡は、1982～84年にかけて新潟県教育委員会が発掘調査を実施した。高田平野の西を限る春日山から流下し、関川に合流する正善寺川左岸に立地する古墳時代～平安時代の複合遺跡である。主体時期は11～12世紀後半であるが、当該期の遺構は掘立柱建物23棟、水田、旧正善寺川などで、正善寺川は遺構の切り合い関係から概ね10世紀代に流路化していたと考えられている。出土遺物は土師器・須恵器・墨書土器・木製品などパンケース100箱以上にのぼるが、これらの大半は下層の砂礫層から出土している。和同開珎は15D 9区と同層から発見されている。

小矢部市桜町遺跡（図14）は、1985年に小矢部市教育委員会が発掘調査を実施した。小矢部市街北方の小矢部川と子撫川の合流点に立地する弥生後期～中世の複合遺跡である。古代北陸道沿いに営まれた飛鳥・奈良・平安時代の集落は、前者が掘立柱建物3棟、中者は竪穴住居4棟、掘立柱建物23棟、後者は掘立柱建物3棟を確認している。竪穴住居S I 02から和同開珎が発見されたが、住居内から鉄滓と炉壁が出土している。須恵器・土師器をはじめ、ヘラ書き土器・漆附着土器・墨書土器とともにモモ・クルミなどが共伴する。時期は8世紀中頃である。

氷見市惣領浦之前遺跡（図15）は、2003年に（財）富山県文化振興財団が発掘調査を実施した。石動山丘陵から派生した小丘陵に接し、仏生寺川によって開析された谷平野に立地する縄文～中世の複合遺跡である。A地区とB地区に跨って旧河道S D 01があり、その両岸に縄文～中世

の遺構が検出されたが、とくにA地区では遺構密度が顕著で、「中家」「歌人」などの墨書土器や盾・刀形・剣形の木製品が出土している。SD01より縄文～中世の遺物に混じって和同開珎が発見されている。9世紀～10世紀代が想定されている。

羽咋市四柳白山下遺跡(図16)は、1994年に(社)石川県埋蔵文化財保存協会が発掘調査を実施した。羽咋市東部、富山県境をなす碁石ヶ峰山地山麓の扇状地上に立地する7世紀後半～9世紀中葉の集落遺跡である。A・B地区より掘立柱建物25棟、竪穴建物3棟、井戸1基、道路状遺構が検出されており、4期の変遷が考えられている。L5・6区で検出した北北西に流下する1号溝(幅約40cm、深さ20～30cm)は居住域を区画するが、その溝底より約15cm浮いた地点より和同開珎と帯金具が出土している。西接して並走する4号溝から木杵や墨書土器「寺」が発見されており、付近に寺院が所在する可能性がある。時期は9世紀代に想定される。

白山市宮丸遺跡(図17)は、1987年に石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。県下最長の手取川により形成された手取川扇状地扇央部に立地する。発掘調査は遺跡の一部を調査したもので、8世紀後半～9世紀の掘立柱建物2棟、竪穴住居1棟を検出している。2号建物(3×4間)の南側付近のピット23から和同開珎3枚・神功開寶5枚・不明12枚が一括出土しているが、そのなかに四ツ跳和同1枚が確認されている。時期は9世紀中葉に比定されている。

白山市宮永市松原遺跡(図18)は、1992年に松任市教育委員会が発掘調査を実施した。県下最長の手取川によって形成された手取川扇状地扇央部北東端に立地する古墳時代後期～古代の複合遺跡である。8～9世紀代では掘立柱建物40数棟以上、竪穴住居31棟、井戸4基、土坑など、丸瓦・紡錘車・刀子・鎌などと墨書土器1点が確認されている。建物群は調査区の西と南側にL字状に配置しており、その屈曲部に本遺跡最大規模の15号掘立柱建物(5間×2間)が建てられている。その建物内の小ピットから和同開珎7枚が鍍着して発見されている。北東約1kmに東大寺領横江荘家跡が位置する。時期は9世紀中葉である。

小松市佐々木遺跡(図19)は、1997～99年の3カ年に小松市教育委員会が発掘調査を実施した。小松市街北域を西流する梯川中流左岸に立地する8～10世紀後半の集落遺跡である。周辺域には律令期の遺跡が群在しており、梯川対岸東北約3kmの古府台地は加賀国府推定地とされる。遺跡の形成は8世紀初めに調査区南側に建物群が成立し、9世紀後半～10世紀中頃に建物群は北側に移動して最盛期を迎える。北から西へ蛇行するSD16から和同開珎が発見されたが、その付近より銅鈴が伴出している。多量の須恵器・土師器をはじめ、墨書土器・鉾・瓦・土錘などが共伴する。時期は8～10世紀後半である。

加賀市松山C遺跡(図20)は、1998年に(財)石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。加賀三湖の一つ柴山潟に注ぐ動橋川下流域右岸に立地する。小規模な発掘調査であったが、溝3条と柵列などの遺構と墨書土器を含む多量の須恵器が検出されている。集落の東端を区画するとみられるSD02より多量の須恵器が廃棄された状態で出土したが、その最下層より和同開珎が発見された。共伴遺物は墨書土器(複数の「米」)・鉄刀・フイゴの羽口などがある。南西約2kmの至近に庄家跡の可能性のある西島遺跡が所在する。時期は9世紀前半に想定される。

上記した他に、砂山IV遺跡、船戸川崎遺跡、若宮遺跡、高瀬遺跡、田中遺跡、北川尻ホシバヤマ遺跡、篠原遺跡、福井城遺跡、上蒔生田遺跡、阿納塩浜遺跡があげられる。

類型Ⅳ：祭祀に関連する事例

武生市下ノ宮遺跡は、1968年に斜面を採土中に偶然発見したものである。武生市街地より西方約10km隔てた丹生山地南部の山干飯盆地を流れる天王川によって形成された河岸段丘下の南斜面に立地する。銭貨は水田面より比高約2mの地点から発見されており、前方の水田からも須恵器・土師器・越前焼の散布が認められた。大半は須恵器であるが、両地点からの出土遺物は同時期並行のもので一体の遺跡と考えられる。発見者によれば、短頸壺・長頸瓶・平瓶が40cmほど

の間隔に並置されていたという。銭貨3枚が土中にあり、残り22枚（和同開珎8・萬年通寶1・神功開寶16）が長頸瓶と平瓶に入っていたという。このほかにも碗・皿の底部、甕の破片が出土している。8～10世紀にかけて段階的に行われた祭祀ともなう奉養銭の指摘がされている。

敦賀市榎川遺跡は、1979年に福井県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。榎川町別宮神社前に形成された浜堤上に立地する9世紀初頭の祭祀遺跡である。松原客館跡の推定地とされており、11カ所のグリッドと3カ所のトレンチおよび拡張区を発掘調査したが、予想に反して敦賀郡衙や松原駅、松原客館など官衙的色彩の遺構は検出されなかった。しかし、浅皿状（径30～100cm）の掘り込み14カ所が確認され、その遺構と周辺から8世紀末～10世紀中頃の須恵器をはじめ、素文鏡、銅鈴、刀子、火打鎌、製塩土器、そして古代銭貨8枚（和同開珎5・神功開寶1・隆平永寶2）が出土した。これらの遺物や出土状況は祭祀的色彩が濃く、鎮火儀礼を推測させるものである。

この他に雄山山頂遺跡がある。

類型Ⅴ：墳墓と関連する事例

加賀市宮地火葬墓遺跡は、柴山潟の西方、江沼台地と海岸砂丘の間に立地する奈良時代の火葬墓である。本火葬墓は蔵骨器に土師器甕を用い、その上部に和同開珎13枚を納めた須恵器有蓋坏を置く、特異なものである。本例は白鳳期～奈良時代に存続した宮地廃寺との関連が想定される。時期は8世紀である。

類型Ⅵ：その他や不明の事例

敦賀市深山寺経塚群は、1984年に宅地造成に伴い部分的な調査が行われた。平安時代に築造された20基からなる経塚群であるが、緊急調査によるため部分的に7基が調査された。和同開珎は1号塚より発見されており、大甕をはじめ、青白磁の小皿、白磁小皿片、鏡11面、金銅小鈴1点、刀子が共伴する。経塚副納品として用いられた例は貴重である。時期は12世紀に比定される。

茗荷谷古銭出土地遺跡、栗津小学校遺跡、深田マエダ遺跡、山ヶ鼻古墳群、一乗谷朝倉氏遺跡がある。

4 和同開珎の出土傾向

発掘調査は主に開発行為などに伴って実施される。その結果、掘立柱建物や堅穴住居、溝、井戸、土坑などの遺構が検出されるが、これらの遺構や包含層から遺物が出土する。表2は、官衙（的）跡や庄園跡、集落遺跡から発見された和同開珎の出土遺構を集計したものである（注4）。

表2 性格別による和同開珎の出土傾向

性格別・遺構	SB	SB 柱穴	SI	SD	SE	SX	計
官衙（的）跡	7	4	0	0	0	0	11
庄園跡	0	1	0	2	0	2	5
集落遺跡	2	0	9	8	1	1	21
計	9	5	9	10	1	3	37

これによると、官衙（的）跡では11例（6遺跡）が確認されており、庄園跡は5例（4遺跡）、集落遺跡は21例（16遺跡）を数え、計37例にのぼる。遺構別にみると、掘立柱建物（柱穴5例を含む）に関連する出土例がもっとも多く14例を数え、次いで溝10例、堅穴住居9例、埋納土坑3例、井戸1例の順となっている。性格別にみると、官衙（的）跡で確認された11例の遺構

はすべて掘立柱建物に関係するものであるが、庄園跡では掘立柱建物や溝、埋納土坑から発見されている。集落遺跡では竪穴住居が9例、溝が8例確認されており、この両方で80%強を占めている。なお、掘立柱建物は2例と少なく、井戸、土坑は各1例である。

三者の出土傾向をみると、官衙（的）跡はすべて掘立柱建物に関連する箇所から出土しており、また、集落遺跡では竪穴住居や溝から発見される例が比較的によく、両者に強い傾向性が窺われる。庄園跡は出土例数が少ないが、偏在はしておらず、三者の出土傾向には歴然とした差異が認められる。

5 まとめ

北陸地域における和同開珎の出土例は50遺跡を数えるが、そのうちもっとも多く発見されているのは京畿内に近い福井県（若狭国・越後国）ではなく、それより遠い石川県（加賀国・能登国）である。さらに遠方の新潟県（越後国）からも多く出土している。出土遺跡の時期は主に8～10世紀の範疇であるが、8世紀代より9世紀以降の遺跡から出土する事例がかなり多い。よって、和同開珎の使用期間は長期にわたっていたといえよう。

8世紀代で興味をひくものとして竪穴住居例がある。この出土例は福井県をのぞく、各県より確認されているが、一般民衆における和同開珎の普及を考えるうえで注目すべきものがある。また、新潟県の古代北陸道沿いに分布する官衙や集落遺跡の出土例も意義深いといえよう。9世紀以降では金沢平野における出土分布がとくに目をひく。加賀立国が弘仁14年（823）であるが、これに呼応するように官衙（国府関連遺跡）や庄園跡から発見されている。いずれの出土例も祭祀行為にともなうものであるが、とりわけ千木ヤシキダ遺跡の埋納例はそれらのなかの象徴的なものとして注目される。

出土遺跡の性格にもとづき類型化を試みた結果、公（官）的施設に関連する事例は14遺跡を数えた。神社および寺院に関連する事例は6遺跡。非一般的集落に関連する事例は20遺跡。祭祀に関連する事例は4遺跡。墳墓に関連する事例は1遺跡。その他や不明の事例は6遺跡であった。出土事例50遺跡のうち、官衙（的）跡と集落遺跡は全体の7割弱を占めているが、前者のほとんどは掘立柱建物に関連する発見例であり、それらの銭貨の性格については比較的容易に理解できるものであった。すなわち、掘立柱建物柱穴や建物内外に穿たれたピットから出土する銭貨は建物の造営や廃棄などに際して用いられた祭祀銭であると考えられる。一方、後者では溝からの出土例が比較的よく確認されているが、その性格について具体的に提示するものはなく判別しがたいのが実状である。ただ、検出された溝の大半は居住域を区画する溝であり、その溝から斎串や人形・馬形の木製祭祀具、また銅鈴や鉄刀などが共伴する事例を考慮すると、和同開珎はこれらの祭祀具と同様に祭祀に用いられた可能性が極めて高いものであるといえよう。

出土例の銭種の組み合わせを和同開珎を軸にして、いわゆる奈良3銭種に限ってみると、和同開珎のみのものは37例を数える。和同開珎・萬年通寶の2種は1例。和同開珎・神功開寶の2種は4例。和同開珎・萬年通寶・神功開寶の3種は2例である。奈良3銭種の組み合わせでは和同開珎単種の出土率は84%を示す。北陸地域では和同開珎が単種で使用される頻度が極めて高率であったといえるが、これは長期間にわたり使用されたことに関連するものであろう。とまれ、和同開珎の出土事例の大半は祭祀にともなう呪具として、いわゆる経済外的に用いられたものであり、流通を反映するものではない。出土銭貨から「流通」を考古学的に考究することは困難であると言わざるを得ないが、「普及」という側面について、今後どのように検討していくかが課題である。

なお、北陸地域の現時点では嬰兒の誕生と子どもの成長を祈願する胞衣壺の発見例は確認されていない。

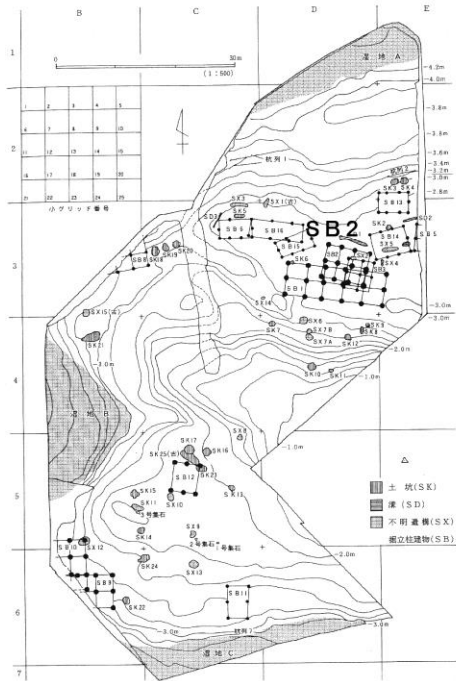
〔注〕

- (1) 当初の北陸道域は西は若狭国の西境から本州の北東に位置する、のちの出羽国の北境に達し、若狭・越前・越中・越後・佐渡の5カ国によって構成されていた。和銅5年(712)に出羽国が立国し、道域がほぼかたまり、養老2年(718)、越前国の北端を割き能登国が独立し、その後、佐渡国が越後国、能登国が越中国に併合、再立国をしたのち、弘仁14年(823)、越前国の江沼郡と加賀郡を分割して加賀国が最後の一国建置となる。これにより北陸道は若狭国・越前国・加賀国・能登国・越中国・越後国・佐渡国の7カ国に確定した。よって、加賀国は厳密には823年の立国以前は越前国域であるから、旧国別にデータ整理することはかなり困難であるといえる。
- (2) 2000年に集成した『畿内・七道からみた古代銭貨』によると、当地域の和同開珎出土例は49遺跡(53例)、出土枚数は1,010枚を数えた。今回の再集成では、銭種不明のものや不分明な出土例は除き、そして新たに発見された惣領浦之前遺跡・加茂遺跡(第7次調査)・佐々木遺跡を追加し、計50遺跡(55例)、出土枚数は989枚を確認した。なお、出土枚数については枚数不明の雄山山頂遺跡と西島遺跡例は1枚としてカウントしているが、実数は989枚以上にのぼる。
- (3) 種大別の分類は、集落ほか例は官衙跡・庄園跡・集落遺跡とし、社寺・祭祀例は社寺跡と祭祀関連のもの、それ以外についてはその他とした。
- (4) 対象とした出土遺跡は、官衙(的)跡では、敷地鉄橋・戸水大西・戸水C・千木ヤシキダ・加茂・的場の6遺跡。庄園跡は上荒屋・藤江B・藤江C(柱)・大友西の4遺跡。集落遺跡は上生田・福井城・篠原C・松山C・佐々木・宮丸・宮永市松原・北川尻・寺家・四柳白山下・田中・桜町・惣領浦之前・一之口・鬼倉・山三賀Ⅱ・船戸川崎の17遺跡である。

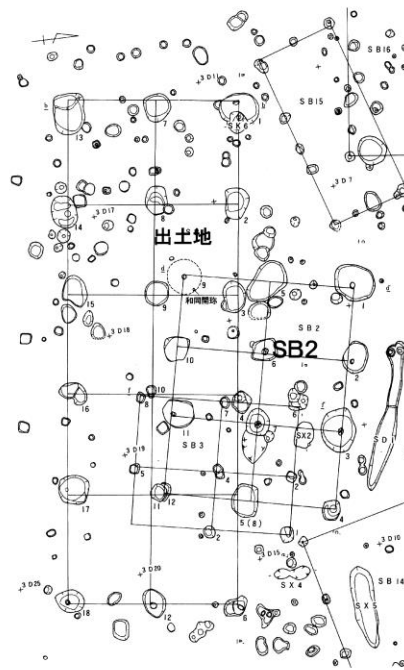
〔参考・引用文献〕

- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡』 新潟県加茂市教育委員会
- 上野 昇 1985 「福井県」『日本考古学年報』35 日本考古学会
- 大森宏他 1982 『阿納塩浜遺跡調査概要一昭和57年度』 小浜市教育委員会
- 押水町史編纂委員会 1974 『押水町史』 押水町役場
- 小矢部市教育委員会 2003 『桜町遺跡発掘調査報告書 弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ』第1分冊
- 加賀市史編纂委員会 1978 『加賀市史』通史上巻 加賀市役所
- 加藤克郎 2001 「羽咋市四柳白山下遺跡出土の古代銭貨」『石川県埋蔵文化財情報』第5号
(財)石川県埋文センター
- 川畑 誠他 2005 『羽咋市 四柳白山下遺跡Ⅰ』 (財)石川県埋文センター
- 木田 清 1994 『松任市宮永市松原遺跡』 松任市教育委員会
- 久保智康 1985 「皇朝銭を埋納する祭祀の一類型」『福井県立博物館紀要』1 福井県立博物館
- 小池邦明他 1993 『新潟市市場遺跡』 新潟市教育委員会
- 小嶋芳孝 1988 『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』 石川県立埋蔵文化財センター
- 小西昌志 1993 『上荒屋遺跡』Ⅱ 金沢市教育委員会
- 栄原永遠男 1993 『日本古代銭貨流通史の研究』 塙書房
- 坂下義視 2004 『佐々木遺跡』 石川県小松市教育委員会

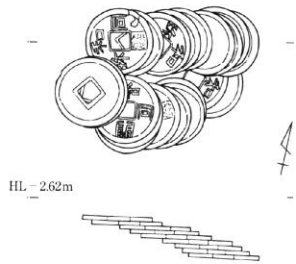
- (財) 石川県埋蔵文化財センター 2002 『現地説明会資料 加茂遺跡』
- (財) 富山県文化振興財団 2004 『埋蔵文化財調査概要—平成 15 年度—』
- 芝田 悟 1986 『金沢市戸水 C 遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 芝田 悟 1987 『敷地鉄橋遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 芝田 悟 1988 「三小牛サコヤマ遺跡の和同開珎について」 『石川考古学研究会会誌』
石川考古学研究会
- 出土銭貨研究会 2000 『出土銭貨研究会第 7 回研究大会 畿内・七道からみた古代銭貨』
- 鈴木景二 1999 「立山信仰と雄山山頂の遺物」 『富山大学人文学部紀要』 第 30 号
- 田上町 1994 『田上町史—通史編—』
- 田島明人他 1978 『郷土』 石川県立大聖寺高等学校郷土研究部
- 出越茂和 1987 『金沢市千木ヤシキダ遺跡』 金沢市教育委員会
- 出越茂和 1991 『金沢市千木ヤシキダ遺跡』 III 金沢市教育委員会
- 富来町教育委員会 1988 『石川県羽咋郡富来町田中遺跡』
- 戸潤幹夫 1990 『小松市高堂遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 戸潤幹夫 2003 『新修門前町史 資料編 1』 石川県門前町
- 富山県教育委員会 1974 『富山県埋蔵文化財調査報告書 III』
- 中条町教育委員会 2002 『新潟県北蒲原郡中条町船戸川崎遺跡 4 次』
〔中条町埋蔵文化財調査報告第 24 集〕
- 七尾市役所 1970 『七尾市史資料編』 第四巻
- 新潟県教育委員会 1989 『新新バイパス発掘調査報告書—山三賀 II 遺跡—』
〔新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集〕
- 新潟県教育委員会 1994 『北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書 IV—一之口遺跡東地区—』
〔新潟県埋蔵文化財調査報告書第 60 集〕
- 仁科 章 1992 「福井県内出土の皇朝十二銭について」 『ふくいミュージアム』 21 福井県立博物館
- 野々市町教育委員会 1967 『史跡末松廃寺—第 1 次 (昭和 41 年度) 発掘調査概報—』
- 氷見繁雄 1986 「日本最古の奈良朝銭出土について」 『奥越研究』 15
- 福井県教育委員会 1970 「武生市五分市町野々宮廃寺」 『福井県文化財調査報告』 21
- 福井市 1998 『福井市史』 通史編 1
- 福島正実 1988 『吉崎・次場遺跡—資料編 (2)』 石川県立埋蔵文化財センター
- 松山和彦 2002 『金沢市 藤江 B 遺跡 (IV)』 (財) 石川県埋蔵文化財センター
- 真野町教育委員会 1969 『佐渡国府緊急調査報告書 (若宮遺跡) II』
- 三浦純夫 1993 『加茂遺跡 第 1 次・2 次調査の概要』 (社) 石川県埋蔵文化財保存協会
- 山口 充 1986 「松原遺跡」 『福井県史』 資料編 13 考古 福井県
- 山口 充他 1987 『六条・和田地区遺跡群』 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 湯川善一他 2001 『加賀市松山 C 遺跡』 (財) 石川県埋蔵文化財センター
- 湯尻修平 1991 『宮丸遺跡・村井北遺跡・北出遺跡・村井キヒダ遺跡・米永古屋敷遺跡』
石川県立埋蔵文化財センター
- 和田龍介他 2000 『金沢市 藤江 C 遺跡 VI』 (財) 石川県埋蔵文化財センター
- 渡辺ますみ 1994 『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会



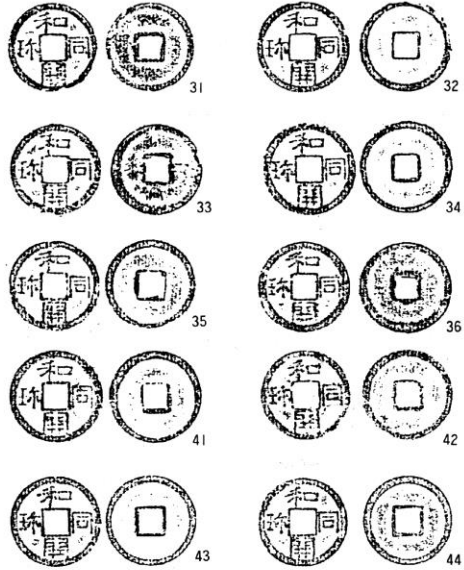
遺構全体図



SB2掘立柱建物遺構図



和同開珎出土状態



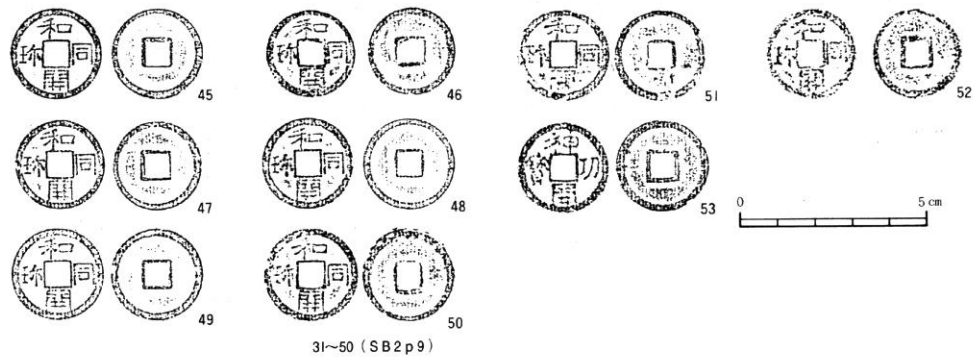


図1 新潟市の場遺跡

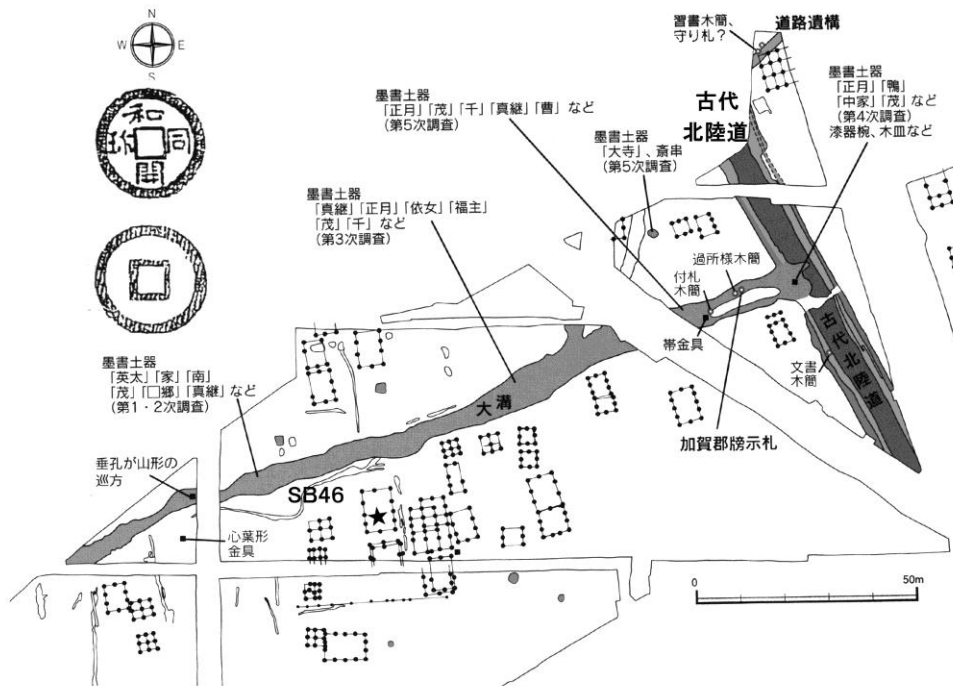


図2 津幡町加茂遺跡

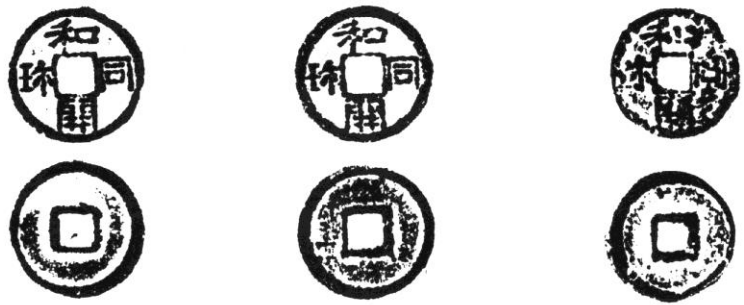
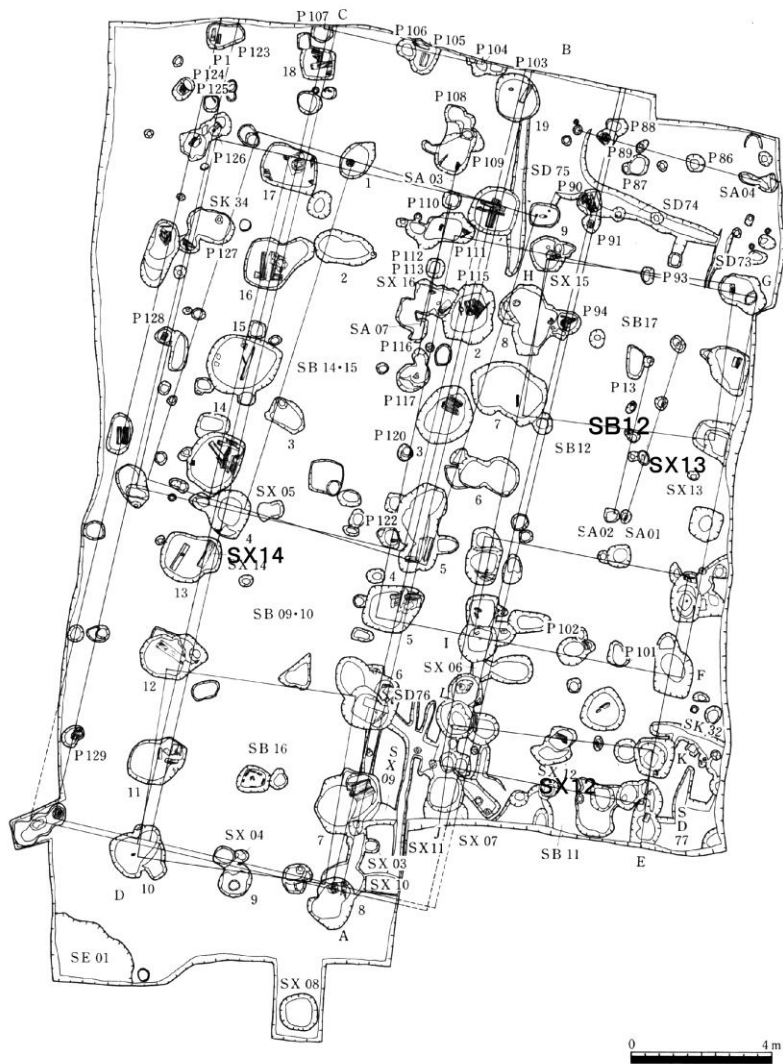


図3-1 金沢市千木ヤシキダ遺跡(1・3次調査)

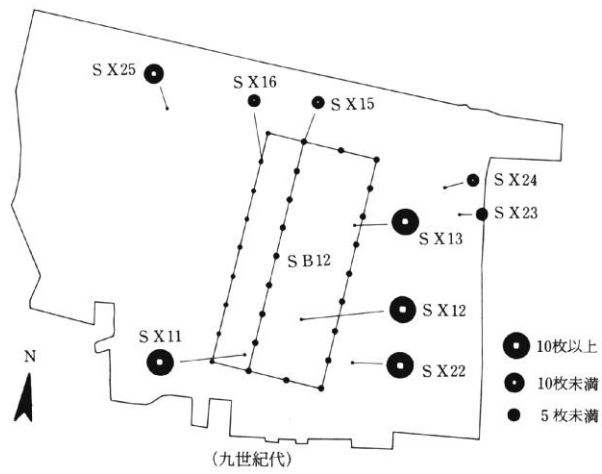


図3-2 千木ヤシキダ遺跡F地区地鎮銭分布模式図

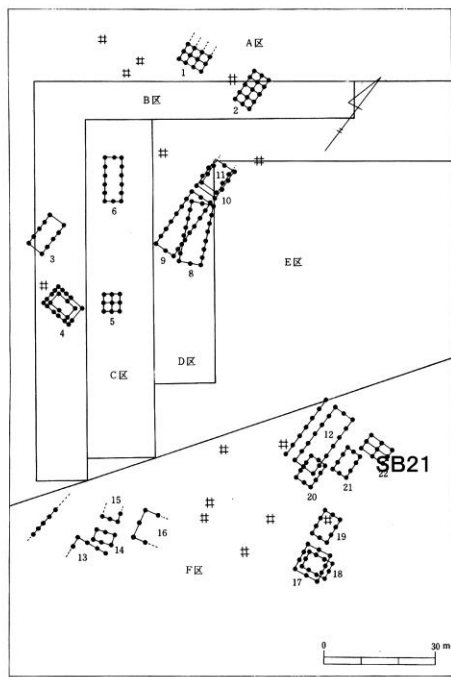
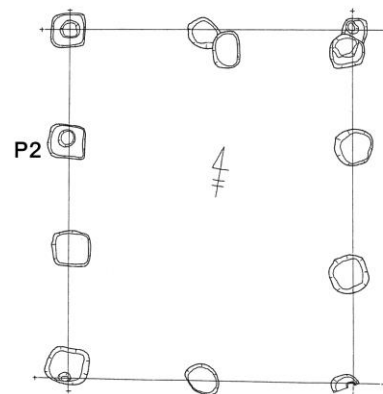


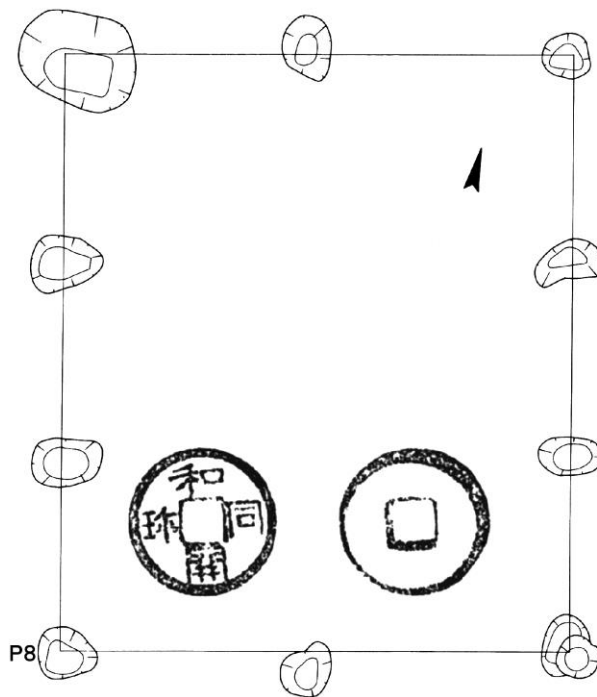
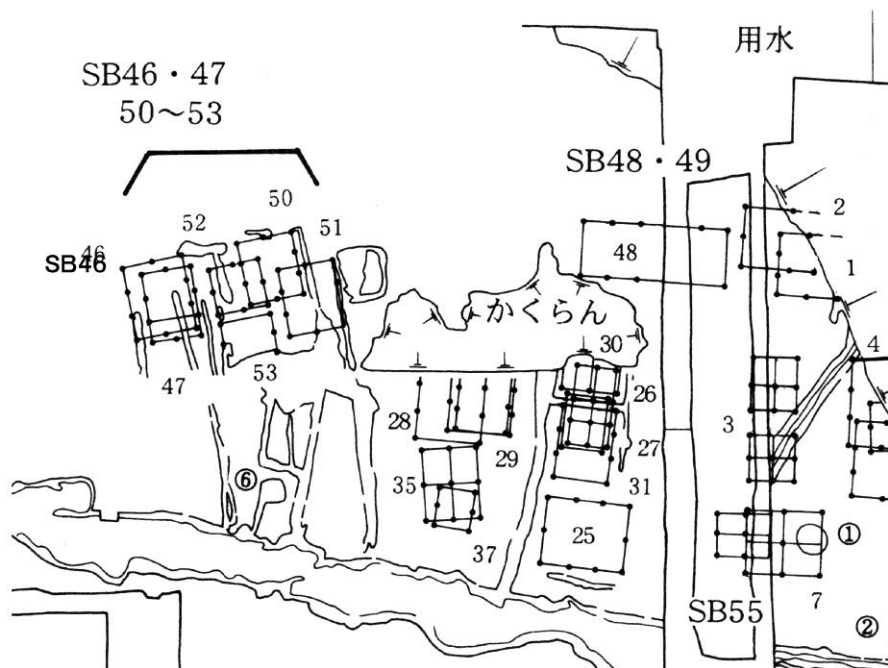
図4 金沢市戸水C遺跡



SB21掘立柱建物



銭貨出土状況



SB46掘立柱建物

图5 金沢市戸水大西遺跡

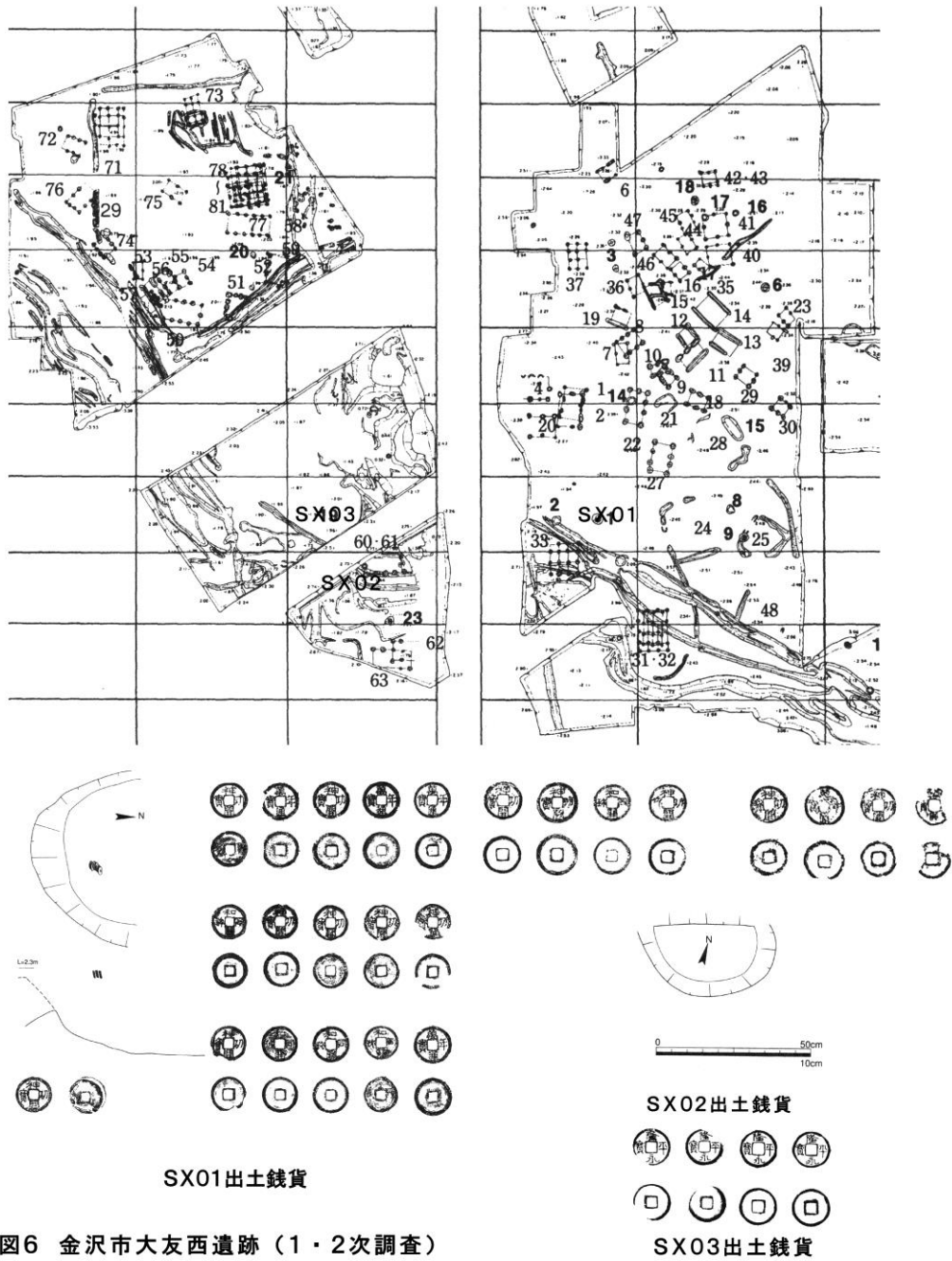


図6 金沢市大友西遺跡 (1・2次調査)

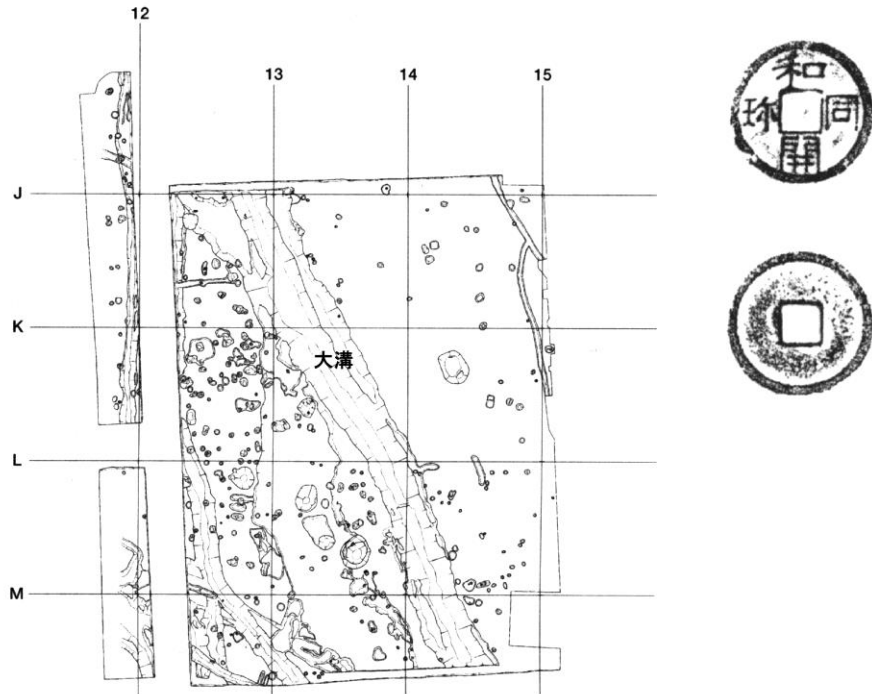


図7 金沢市藤江B遺跡（5次調査）

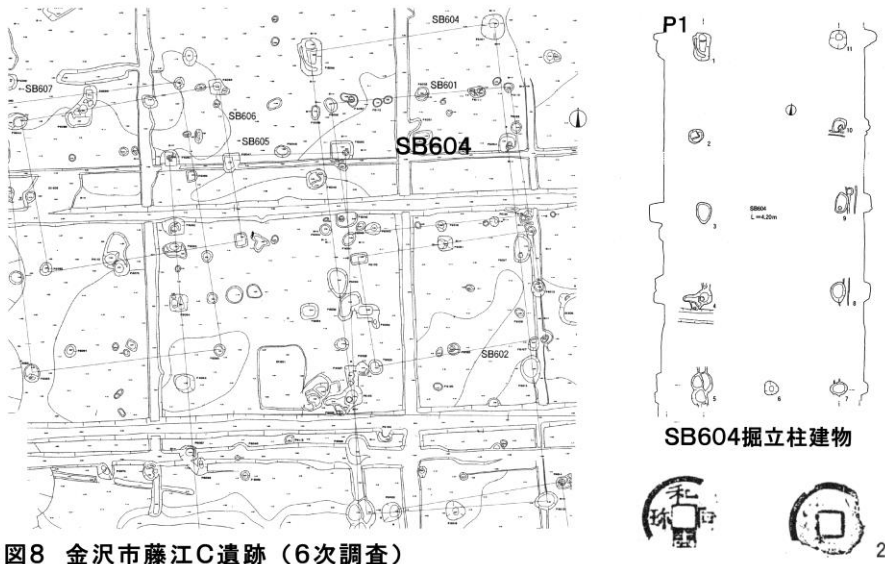


図8 金沢市藤江C遺跡（6次調査）

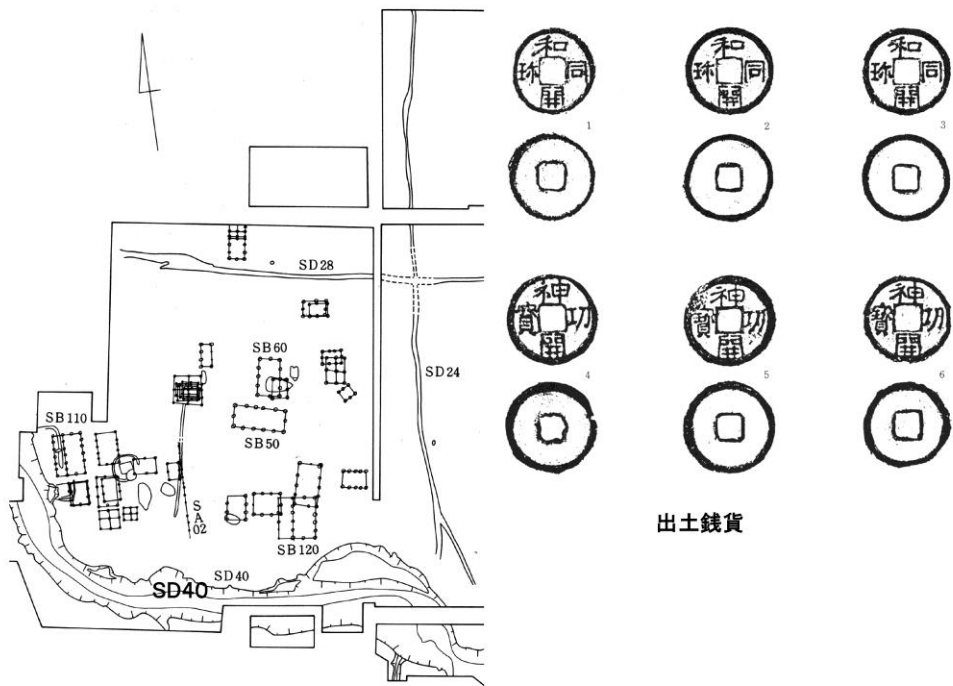


图9 金沢市上荒屋遺跡

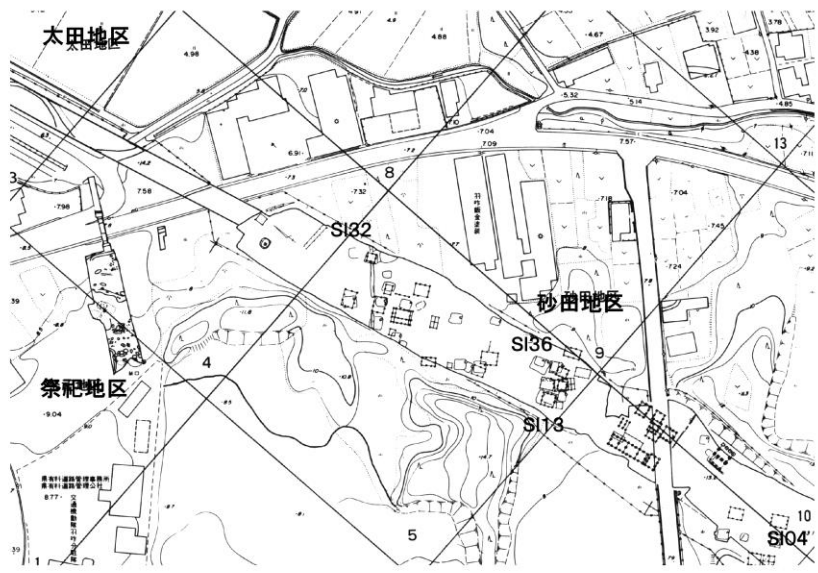
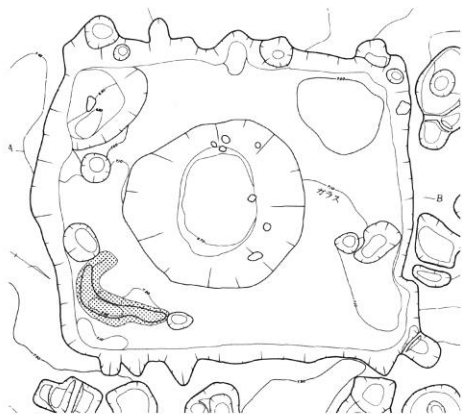
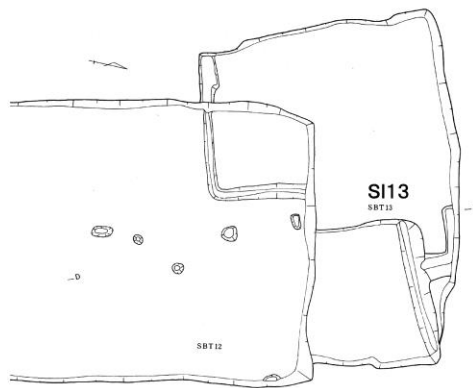


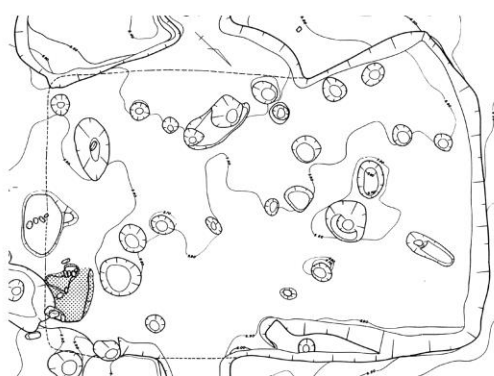
图10—1 羽咋市寺家遺跡



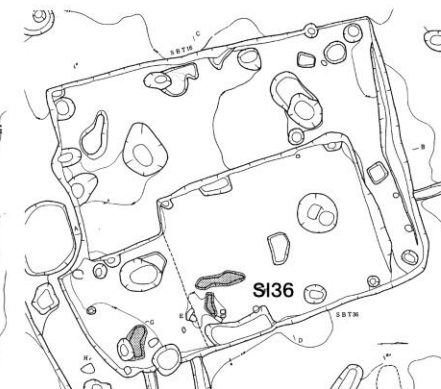
SI04



SI13



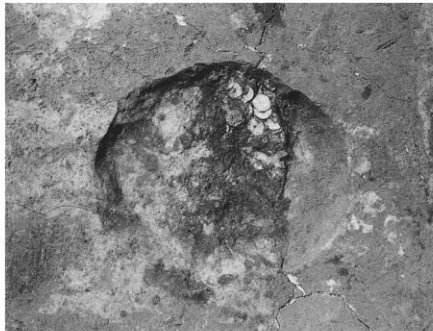
SI32



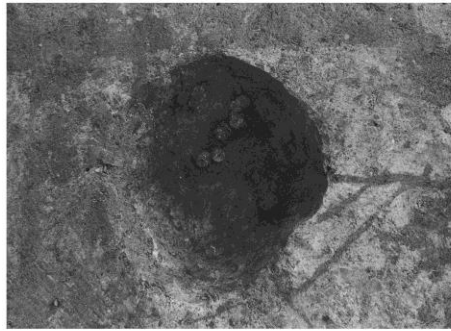
SI36



图10-2 寺家遺跡(砂田地区)竪穴住居遺構図

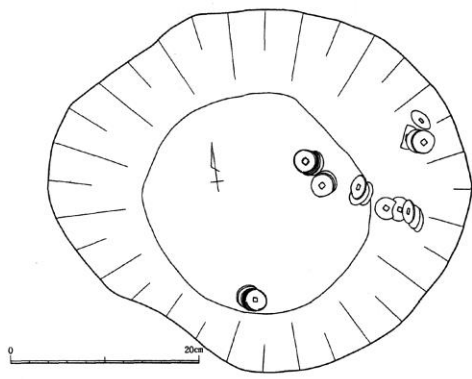


P117出土状況



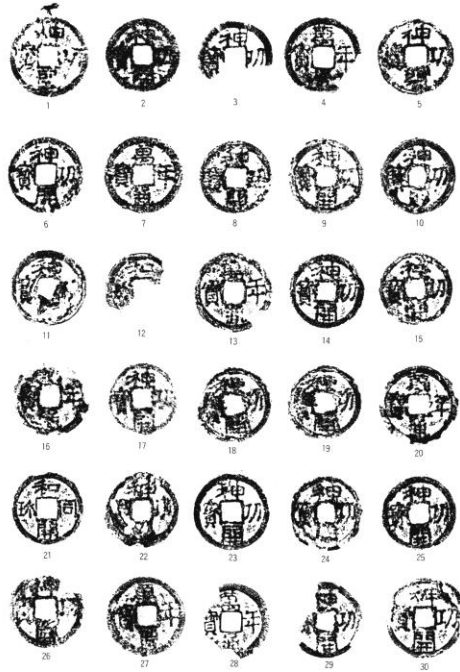
P161出土状況

图11-1 小松市高堂遺跡北調査区



(P161遺構図)

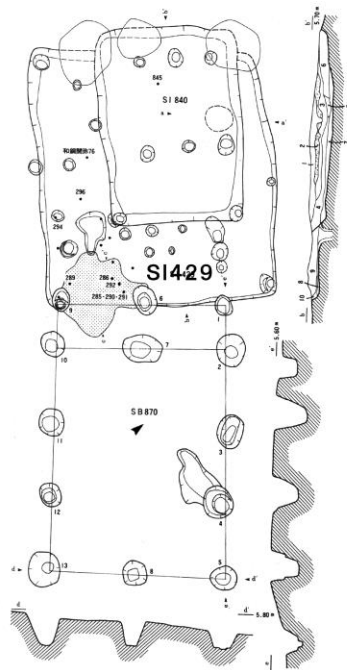
図11-2 高堂遺跡



P117・161出土銭貨



図12 聖籠町山三賀Ⅱ遺跡



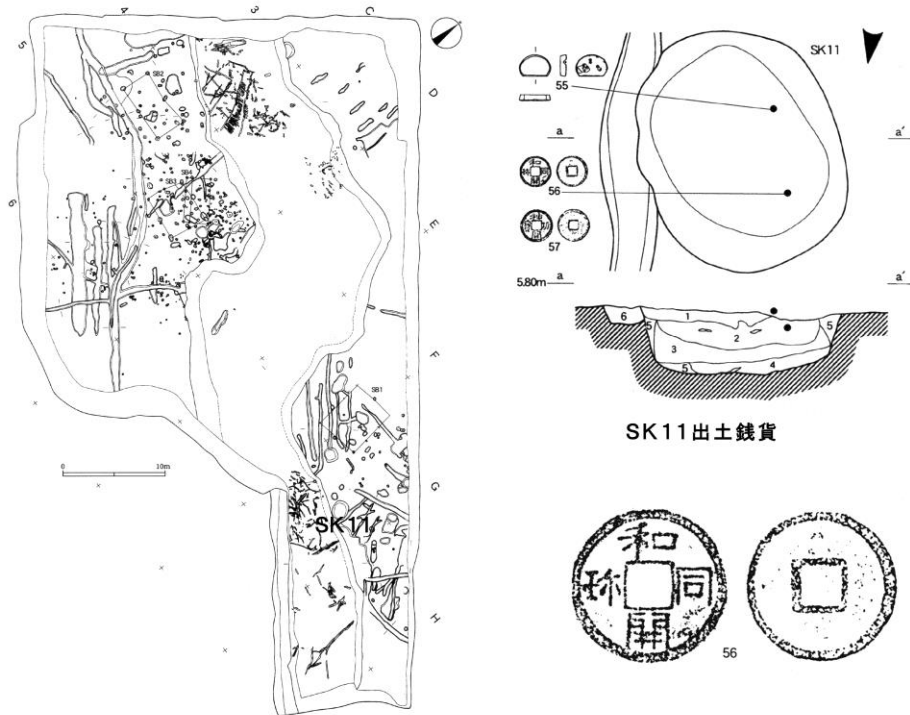


图13 加茂市鬼倉遺跡

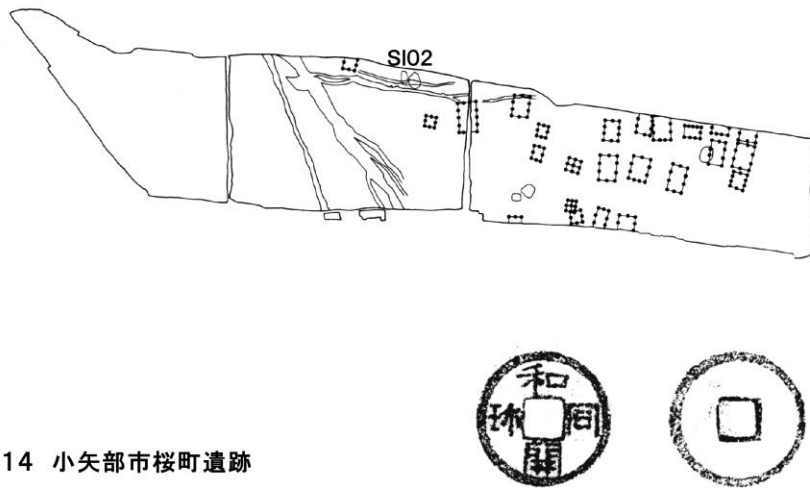


图14 小矢部市桜町遺跡

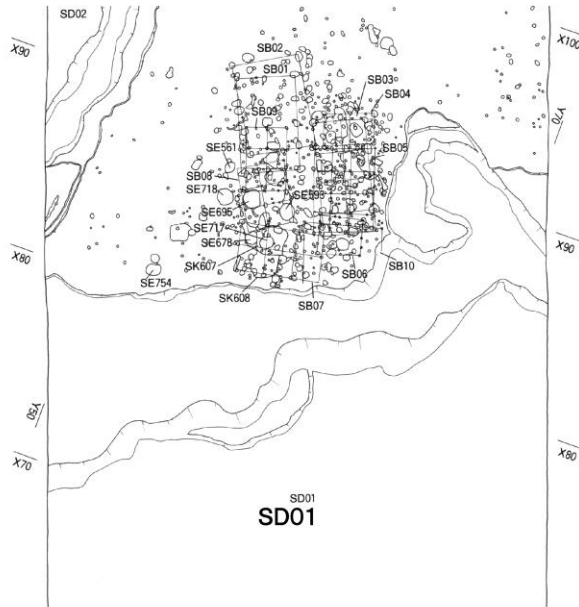


图15 水見市惣領浦之前遺跡

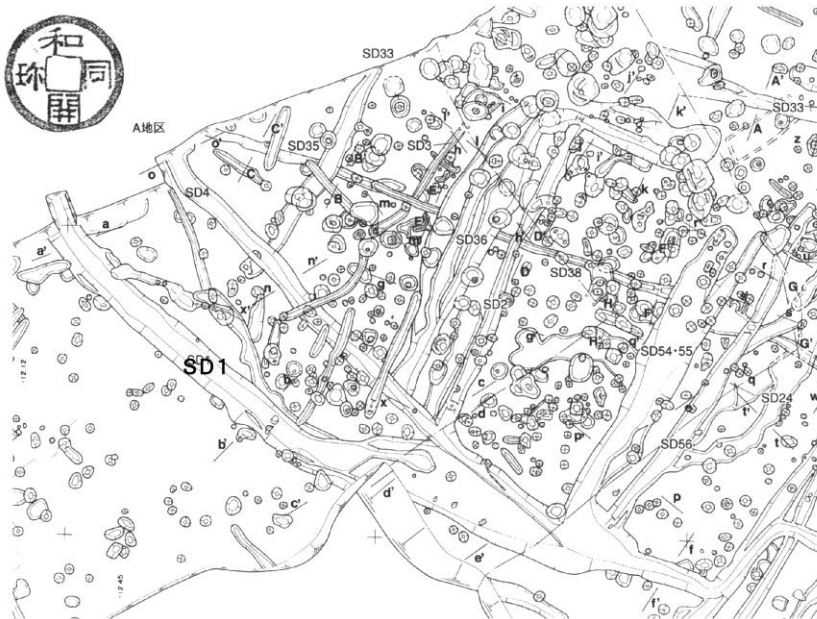
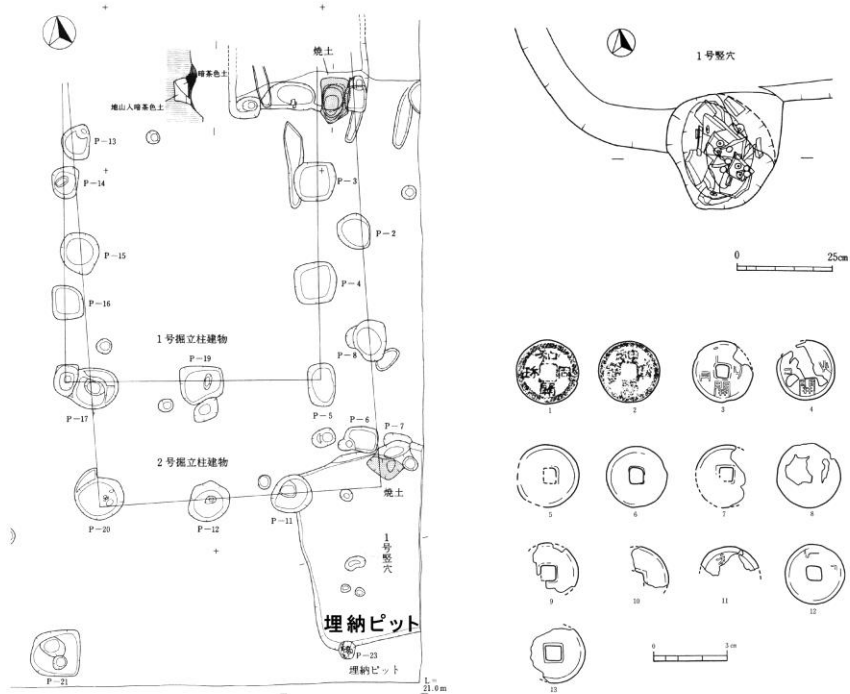


图16 羽咋市四柳白山下遺跡



1・2号掘立柱建物
図17 白山市宮丸遺跡

上(埋納ピット遺構図) 下(出土銭貨)

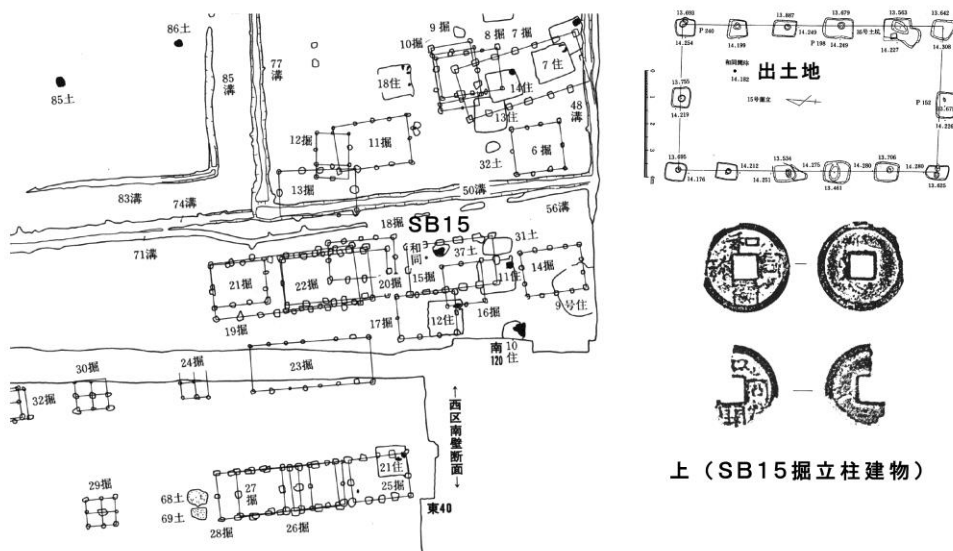


図18 白山市宮永市松原遺跡

上(SB15掘立柱建物)

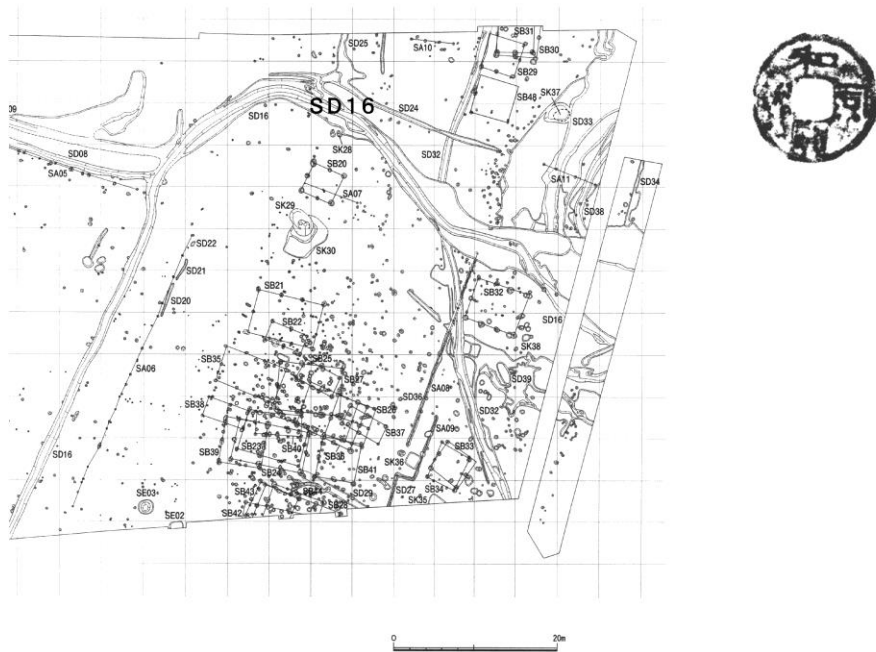


図19 小松市佐々木遺跡

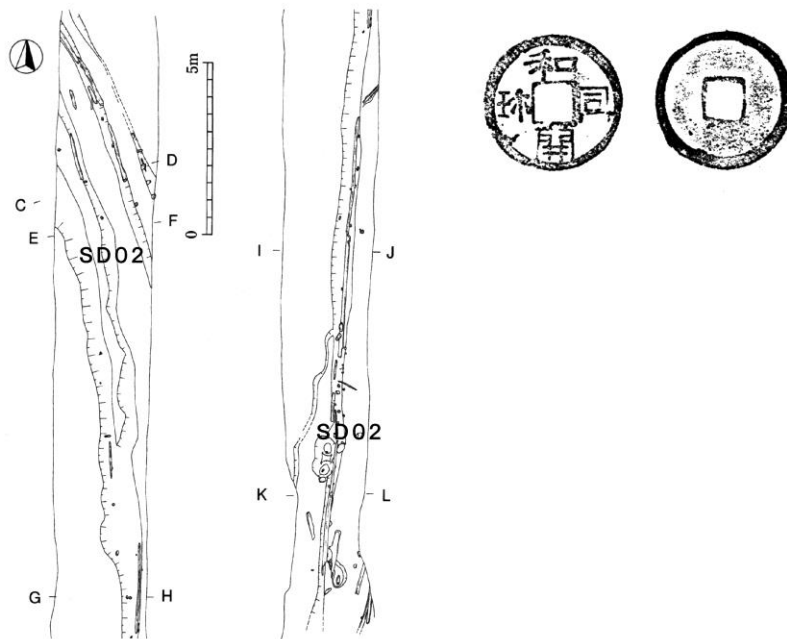


図20 加賀市松山C遺跡